



にしみこどもクリニック
西見 寿博 医師

HPV感染 子宮頸がん予防

これから活躍する
若い女性のために



HPV感染は子宮頸がんだけでなく、外陰がん、膣がんや男性も含めて陰茎がん、肛門がん、口腔がん、中咽頭がん、皮膚がん、尖圭コンジローマなどを引き起こします。

いずれも治療が困難で、日常生活に大きな影響を及ぼし、不幸な事態になりますが、ワクチン接種により予防ができます。

また、子宮頸がんの予防にはワクチン接種に加えてがん検診も大きな柱です。女性にとって内診検査は負担の大きい検査ですが、早期発見・早期治療が何よりも大切です。

多くの若い女性の「いのち」「将来」を奪う子宮頸がん
子宮頸がんはHPV（ヒトパピローマウイルス）への感染が原因で発症します。感染を予防するHPVワクチンは副反応の可能性があると反対運動が起き、平成25年から昨年まで積極的な接種勧奨が控えられてきました。日本では、この間ワクチンの接種率が1%台まで下がっており、毎年1.1万人が子宮頸がんにかかり、約2900人が亡くなっています。子宮頸がんは妊娠可能な20～30代でかかり、抗がん剤による治療や子宮摘出手術を受ける方もいます。



感染そのものを防ぐHPVワクチンの接種が効果的です。4月より従来ワクチンより効果の高い9価ワクチンの定期接種を開始しました。対象者へは個別で通知します。詳細はこちら



ワクチン接種



ワクチンで予防できないウイルスもあるため、20歳から2年に1回子宮がん検診を受けましょう。また、平成6・10・14年度生の方へは5月中旬頃に子宮がん検診を受けられる無料クーポン券をお送りします。ぜひご利用ください。

がん健診

子宮頸がん予防のための

2つの柱

産前・産後のあなたへ
サポートします
あなたの子育て
ファミリー・サポート・センターに新サポートが追加
提供会員（有償ボランティア）による託児が可能な栗山町ファミリー・サポート・センター（以下、ファミサポ）。4月から妊娠（4カ月）の負担軽減や安心して子育てができるよう、育児や家事を支援する「子育てサポート」をはじめ、
詳細は令和4年10月からは広報でもお知らせしました。

こんな時ありませんか？

産前

- ・つわり、貧血等で体調が悪く家事・育児が困難になっている
(例：切迫早産で安静が必要、通院時に子どもを連れて行けないなど)



産後

- ・夜中の授乳や夜泣きで睡眠不足で疲れがたまっている
- ・育児が不安で健診に付き添って欲しい
- ・上の子どもの送迎ができない

New !!

産前・産後のサポート



- ・お子さんの見守りや預かり
- ・沐浴やお世話のお手伝い
- ・病院受診や健診時の付き添い

New !!

家事支援サポート



- ・住居の清掃、整理整頓（日常の清掃）
- ・日用品の買い物
- ・衣類の洗濯
- ・調理や後片付け

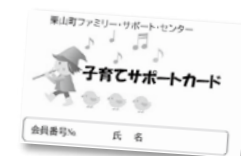
そんな方に活用してほしいサポート



研修を受けた提供会員がサポートします

／さらに／

母子健康手帳の交付後、産後4カ月までに使える20時間無料クーポンを配布します



経験豊富な方々のサポート、ありがたいです

2人目の子の妊娠がきっかけで、普段から健診・通院時にファミサポで上の子の託児をお願いしていました。産後は、新しい子育てサポート事業が始まったと聞き、上の子の入園式に出席するため、3カ月の娘を預ける形で新制度を利用しました。無料クーポンを使えたのも大変助かり、また、子育て経験の豊富な提供会員さんに預けられるので、とても安心でした。これから園の行事も増えてくるので、またお願いしたいです。

入園式帰りに取材しました！



齊藤 志津さん
(洸太くん・礼華ちゃん)